

特定外来生物

# セイヨウオオマルハナバチ

昆虫綱 ハチ目 ミツバチ科 *Bombus terrestris*

生態系被害防止  
外来種リストの区分

産業管理外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥類

昆虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

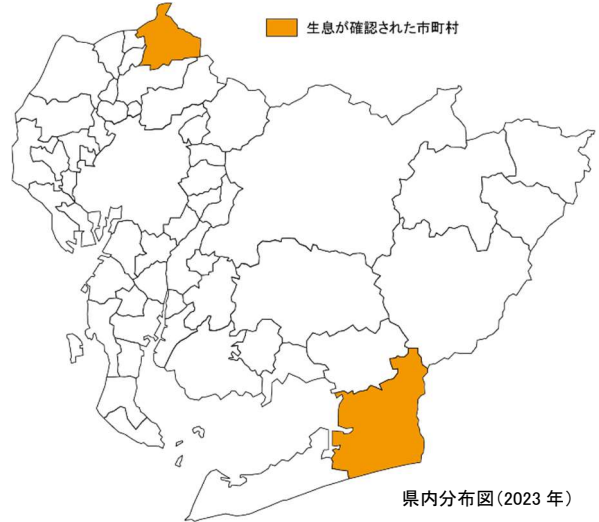
## 基礎情報

### 原産地

- ・ヨーロッパ

### 現在の分布

- ・世界では、北米、オセアニア、イスラエルなどに移入されている。
- ・国内で定着しているのは北海道のみ。道内では広く定着・増加している。約 30 の都府県において野外での目撃情報があり、一部では営巣も記録されている。
- ・県内では、犬山市、豊橋市で確認されている。



### 侵入の経緯

- ・温室栽培農業(トマトなどのハウス栽培)の受粉を目的として輸入されたが、温室から逃げ出したものが野外に定着している。
- ・1991年に静岡農業試験場で試験導入されたのち、1992年ごろから輸入が本格化した。
- ・1996年に北海道で本種の女王バチによる野外越冬がはじめて確認され、自然巣も発見された。
- ・コロニー(女王を中心とする家族)単位で輸入。国内では2017~2021年度の5年間で約20,000コロニーが輸入されている。
- ・外来生物法に基づき、2019年9月よりトマトの受粉など農業使用の目的で引き続き利用(飼養)できるのは、これまで飼養等の許可を得て利用していた者(あるいは親族等の継承者)のみとなった。また、2022年4月からは規模の拡大(飼養数の増加)も認められなくなった。
- ・本県で有効な飼養等許可数量は、2023年4月1日現在で許可件数1,298件、許可数量46,615群(許可を受けている数量であり実際の取扱量とは異なる)

全国における年度別セイヨウオオマルハナバチ輸入量

年度	コロニー数
2017	4,642
2018	4,784
2019	4,542
2020	2,790
2021	2,977
合計	19,735

(環境省資料)

### 形態

- ・体長は女王バチ 18~22mm、オス 14~16mm、働きバチ 10~18mm
- ・体は丸みを帯び、毛で覆われる。
- ・胸部、腹部のそれぞれが、鮮やかな黄色と黒色の縞模様で腹部末端の第5節と6節が白色。
- ・斑紋は女王、オス、働きバチでほとんど差がない。



生息環境

- ・里山から都市まで、さまざまな環境に生息する。
- ・花の花粉や蜜を集めるため、花の咲く場所で見ることができる。

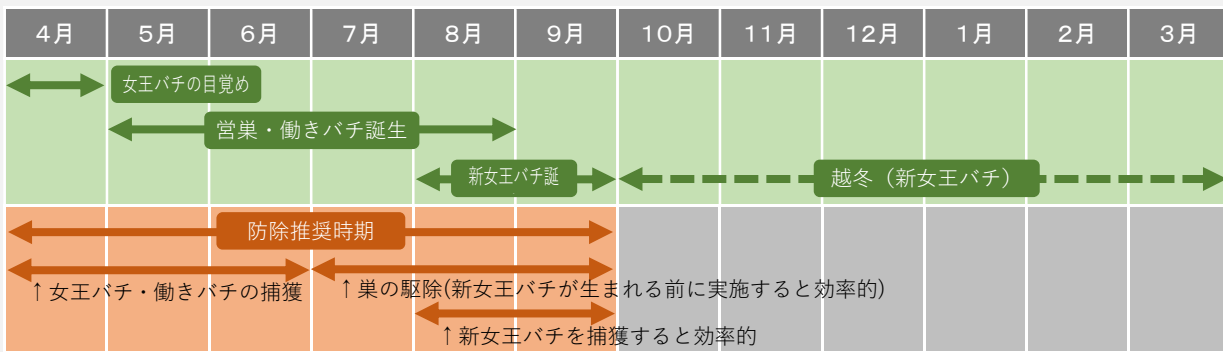
生態・ライフサイクル

- ・様々な花を頻りに訪れ、花粉や蜜を集める。
- ・1頭の女王バチと女王バチから生まれた多くの働きバチ、繁殖期のみ生まれてくるオスによるコロニーをつくる。女王バチの寿命は1年。
- ・春に女王バチが越冬から目覚め、ネズミなどの古い巣穴を利用して土の中や地表に巣を作る。
- ・年1化で、秋に誕生した新女王バチが交尾後に越冬し、翌年5~6月に単独で営巣を開始する。
- ・飼育下での観察では、1コロニーあたり平均800~1,000頭の働きバチとオス、60~180頭の新女王バチを生産した。
- ・ミツバチなどに比べると大人しいハチであるが、素手で触ると針で刺すこともある。



花を訪れるセイヨウオオマルハナバチ

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

- ・本県では、在来マルハナバチ類として、コマルハナバチ、ヒメマルハナバチ、トラマルハナバチ、オオマルハナバチ、クロマルハナバチの5種が確認されている。
- ・これらの在来種は、セイヨウオオマルハナバチとほぼ同じ大きさで体型もよく似ているが、腹部末端の色で識別できる。

【類似種の例】

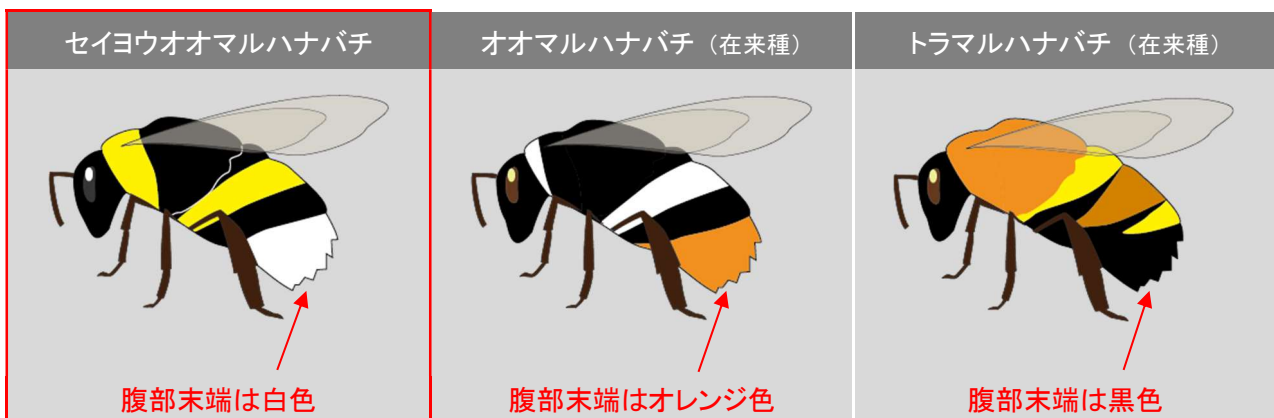


イラスト:「長野県版外来種対策ハンドブック〜みんなで守る信州の自然〜」(長野県,2020)を元に作成

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

## 影響・被害

- ・エサや営巣場所を奪うことにより、在来マルハナバチ類との競合が懸念される。北海道の一部地域では、セイヨウオオマルハナバチと在来マルハナバチ類の置き換わりが生じ、特にエゾオオマルハナバチの明確な減少が確認されている。マルハナバチ類は、しばしば巣の乗っ取りを行うが、セイヨウオオマルハナバチも在来マルハナバチ類の女王を刺殺して乗っ取りを行った例が報告されている。
- ・在来マルハナバチ類との交雑・不妊化による繁殖阻害が懸念される。
- ・輸入に伴い、外国産の寄生虫(ダニ等)が持ち込まれ、在来マルハナバチ類に感染するおそれがある。
- ・在来マルハナバチ類により送粉されていた野生植物が繁殖できなくなるおそれがある。
- ・セイヨウオオマルハナバチは舌が短いため、花の蜜まで舌が届かないとき、花の側面に穴を開けて蜜を吸う(盗蜜という)。盗蜜された花は正常に花粉が媒介されず、種子生産が阻害される。

## 生息・被害の確認方法

- ・成虫は、吸蜜等の対象である花の周りや本種を飼養しているハウスの周囲など、集まる可能性がある場所で目視により確認する。
- ・巣は、主に地中に作られるため、他のハチ類に比べ発見は困難である。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・地域の住民や農業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



(写真提供:環境省)

花を訪れるセイヨウオオマルハナバチ

## 防除方法

- ・ハチ類など飛翔能力が高い外来昆虫は広範囲に拡散しやすいため、飼養個体が野外に逃げ出さないよう適正な施設管理の徹底を周知する。
- ・成虫(女王バチ、働きバチ)は、捕虫網を用いて捕獲する。巣は、殺虫剤を噴霧したうえで取り除く。

### 推奨時期

- ・女王バチ、働きバチの捕獲は4~6月頃に行う。
- ・巣の駆除は、巣が発達して見つけやすくなる7~9月頃の実施が推奨される。
- ・新女王バチの捕獲は誕生から越冬するまでの8~9月頃に行う。

### 具体的な防除方法

- ・飼養個体が野外に逃げ出さないよう、飼養にあたっての適正な施設および管理、使用後の処分方法について、飼養者に対する普及啓発に努める。
- ・飼養者に対し、在来種であるクロマルハナバチへの転換を勧める。
- ・女王バチ・働きバチは、吸蜜等の対象である花の周りや本種を飼養しているトマト温室の周囲など、集まる可能性がある場所を探索し、捕虫網を用いて捕獲する。捕獲したハチは、捕虫網の上から殺虫剤をかけるなど、原則としてその場で殺処理する。
- ・巣は、出入り口をふさぎ、中に殺虫剤を噴霧した後で地中から掘り出して取り除く。
- ・殺処理後の最終処理は、一般廃棄物として廃棄する(各自治体の基準に従う)。

【セイヨウオオマルハナバチ飼養にあたっての適正な施設および管理等の概要】

対象	適正な施設および管理等の概要	留意事項
ネット	天窓、側窓、換気扇など、隙間ができる場所には必ずネットを張る。	ハウスと地面の間の隙間は土などで埋める。パイプを通す穴の隙間はパテなどで埋める。
ハウス	ハウスのビニールやネットを定期的に点検し、穴が開いていた場合は、直ちにハチを巣箱に回収する、穴を補修するなどの対応を行う。	悪天候の後には必ずハウスやネットを点検する。ハウスの骨組みの裏など見落としやすいところも点検する。
出入口	出入口の扉等を二重構造(戸+ネットなど)にする。出入りの際はこまめに出入口を閉じ、開け放すことがないようにする。	出入口のネットは地面まで確実に届く長さとし、地面との間に隙間ができないようにする。人の出入りや出荷の搬出作業の際は出入口のネットをまとめ上げたままにしない。
巣箱	ハチの入った巣箱をハウスの外で一時的に運ぶ場合は、別の箱や袋などで二重に囲う。	—
標識	飼養等の許可を受けた施設(ハウス)と巣箱に標識(許可の写しまたは概要)を掲示する。	許可を更新した場合は、新しい有効期限が表示されたものに交換する。
数量	許可された数量(同時に使える巣箱の上限の数)を遵守する。	複数のハウスで一つの許可を得ている場合、許可数量はハウス毎の数量ではなく、全体としての数量となるため要注意。
処分	使い終わったハチは、巣箱をビニール袋に入れ、ハウス内で日光に当てて蒸したり、熱湯をかけるなど、確実に殺処理して廃棄する。	殺処理はハウス内で行う(生きたまま保管・運搬等することは原則禁止)。

哺乳類

鳥類

は虫類

昆虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため注意が必要である。
- ・ミツバチなどに比べるとおとなしいハチであるが、素手で触ると針で刺すこともあるため、直接触らないよう保護手袋(市販のハチ専用防護手袋など)を着用し、肌を出さないようにする。巣を駆除する際は、周囲に人がいないことを確認してから実施する。
- ・殺虫剤を使用する際は、人やペット、人が触る場所にかからないよう配慮する。また、動かなくなっても完全に死んでいない可能性があるため注意する。
- ・1匹見つければ周囲にもいたり、巣がある可能性もあるため、周りをよく確認したり、駆除後も定期的に確認をする。

【刺された時の対応】

- ・刺された場所を流水でよく洗い、傷口から毒をしぼり出す。抗ヒスタミン軟膏などを塗って冷やす。
- ・息苦しさや口の乾き、冷や汗、めまい、血圧低下、しびれ、嘔吐、じんましん等、全身に症状がでた場合はアナフィラキシーショックの可能性があるので、すぐに医療機関で受診するか救急車を呼ぶ。

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 昆虫類 > セイヨウオオマルハナバチ (国立研究開発法人 国立環境研究所) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60080.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > セイヨウオオマルハナバチ (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-kon-08.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集 (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 昆虫類 (環境省 自然環境局) [https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/6hp\\_konchurui2.pdf](https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/6hp_konchurui2.pdf)
- ・セイヨウオオマルハナバチは、「特定外来生物」なんです!! (環境省 九州地方環境事務所,2011)
- ・セイヨウオオマルハナバチの許可基準が変わりました(2019年9月より適用) (環境省 自然環境局,2019)
- ・長野県版外来種対策ハンドブック～みんなで守る信州の自然～ (長野県,2020)